

# 火起こし体験

電気、ガスがない環境においても火を起こすことができる知識と技術があれば、災害などの困難な状況でもたくましく生き残ることができます。

普段、子ども達だけではできないことですが、大人と一緒に行うことで火の取扱を楽しく学ぶ機会となり、自らの力で火を起こすことで普段味わうことができない達成感を得ることができます。

注意！

子ども達だけでは絶対にやってはいけません。

# MENU

## 【 STEP 1 】

身の回りのもので着火しやすいものを探してみよう

## 【 STEP 2 】

焚火を試してみよう

【STEP1】 身の回りのもので着火しやすいものを探してみよう

＜自然のもの＞



細い枝



落ち葉



木の皮



松ぼっくり



杉の枯葉

＜生活の中のもの＞



新聞紙



牛乳パック



ガムテープ（布製）





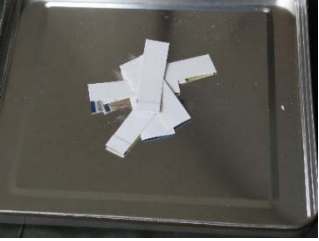
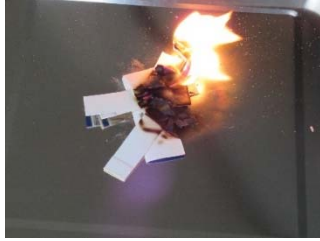





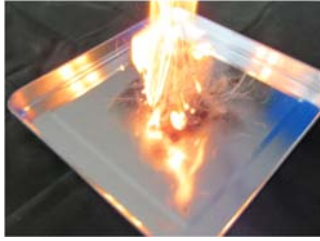




段ボール



麻ひも

見つけた素材を使って、どの素材に火が付きやすいのか、実際に試してみましよう  
※必ず消火器や水バケツを準備しましょう。  
次のページに着火の実験結果がのっていますので、参考にしてみてください。

着火実験結果

ガムテープ (布製)			着火 ★★★ 火力 ★★★ 持続 ★★★
牛乳パック			着火 ★★★ 火力 ★★★ 持続 ★★★
段ボール			着火 ★★★ 火力 ★★★ 持続 ★★★
新聞紙			着火 ★★★★ 火力 ★★★★ 持続 ★☆☆
麻ひも			着火 ★★★★ 火力 ★★★★ 持続 ★☆☆
杉の枯葉			着火 ★★★ 火力 ★★★★ 持続 ★★★
松ぼっくり			着火 ★★★ 火力 ★★★ 持続 ★★★★

★☆☆・・まあまあ

★★☆・・なかなか

★★★★・・すごい!

※当たり前ですが、すべての素材は乾燥していることが重要!



## 【STEP2】 焚火をしてみよう

### ●ワンポイント

※着火剤は、中に空気が入るように意識しておくのと強い火力で枝などにうまく燃え移ります。

※針葉樹（マツやスギ）の薪は着火しやすく火力も強いが燃え終わるのも早めです。

広葉樹（ブナやナラ）の薪は密度が高く着火しにくいですが、一度火が付けばしばらく強い火力を保ったまま燃え続けることができます。

### <ティピー型>

焚火の代表的な薪の組みかたです。

火が高く豪快に燃えますので、みんなで焚火を囲んで楽しむのようときに向いています。



組みやすさ	☆☆☆
着火しやすさ	★★★★
調理	☆☆☆
薪の消費量	★★★★

①着火剤を中心に置きます。

②着火剤の周囲に細い枝（割りばしでも可）を山形に並べていきます。

※焚き付け用の細い枝が多ければ太い枝や薪に燃え移りやすくなります。

③細い枝の周囲に同じように太い枝や薪を山形に並べます。

### <井桁（いげた）型>

キャンプファイヤーでおなじみの薪の組みかたで、煙突効果で上昇気流が生まれ、よく燃えます。

安定した構造で大きな炎を維持することができます。

※燃焼効率が良いため薪の消費が多めです。



組みやすさ	★★★★
着火しやすさ	★★★☆☆
調理	☆☆☆☆
薪の消費量	★★★★

①太目の薪を「井」の形に並べます。

②太めの薪の上に同じようにやや細めの薪を「井」の形に並べます。

③着火剤を中心に入れます。

④着火剤の上に細い枝などを入れます。

### <並列型>

薪が安定し、燃焼効率もいいので焚火を使った調理にも向いています。



組みやすさ	★★★★
着火しやすさ	★★★☆☆
調理	★★★★
薪の消費量	★★★☆☆

- ①太目の薪を2本並べます。
- ②中心に着火剤を置きます。
- ③着火剤の上に細い枝などをおきます。
- ④最初に置いた太目の薪をゲタにして上に薪を並べます。

### <ロングファイヤー型>

焚火としての見た目は地味ですが、着火しやすく持続性もある万能タイプの組みかたです。



組みやすさ	★★★★
着火しやすさ	★★★★
調理	★★★★
薪の消費量	★★★☆☆

- ①大きめの薪を両側に2本並べます。
- ②中心に着火剤を置きます。
- ③その上から細かい枝や薪を大きめの薪の間にまんべんなく入れます。

今回紹介した薪の組み方以外にも様々な方法があります。  
オリジナルな組み方も試してみるのも面白いと思います。  
火をつけるコツさえ知っていれば、どんな状況だって焚火はできます。  
いろんな着火方法や薪の種類・組み方にチャレンジしてみましよう。